



南風

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

Vol.27
2013.4~6
春号



ワクワク工作室 vol.2

身近な素材を使ったクラフトや工作、昔ながらの手作りおもちゃなどを紹介します。

作り方



① とってきた海藻を洗い、塩を抜く。



② バットに水をはり、台紙を浸す。



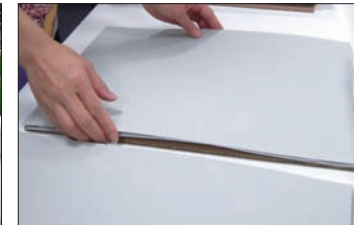
③ 好きな海藻を台紙にのせ、ピンセットや爪楊枝、綿棒や筆で調整。



④ すのこにのせて表面の水が落ちるまで乾かす。



⑤ 板、ダンボール、吸水紙の上に台紙をのせる。



⑥ 台紙の上に布を重ね、さらに吸水紙をのせる。



⑦ 吸水紙とダンボールを重ね、板と重しをのせ、2〜3日送風して乾燥させる。



⑧ 乾燥したら布をゆっくりはがし、ラミネートして完成。



海藻おしばアート

材料

いろんな種類の海藻、ハガキやケント紙などの台紙、バットかトレイ（台紙が入るサイズのもの）、ピンセット・爪楊枝・綿棒・筆など、すのこ、さらしなどの布、吸水紙（ボールチップ紙や、表面に光沢がない厚紙）、ダンボール、ブロックや本などの重し、板。他にも、ハサミを使って海藻を切ったり、ストローでくり抜くなどするとさらに楽しい作品ができる。

海藻ってどんな生き物？

海の中に生える藻類で、花は咲かず胞子で増える。根の部分は岩などへ付着するだけで栄養をとらず、光合成をする。世界には1万種類あるが、日本に生息する海藻は2千種類ほど。沖縄では昔から干潮のサンゴ礁でいろんな海藻をとり、食用にしてきた。

沖縄の海藻



沖縄美ら島財団の工作教室に参加してみませんか？

当財団では主にお子様を対象として「美ら海・美ら島工作室」や「クラフト作り」等を開催しています。参加ご希望の方は下記ホームページでイベント情報をチェックしてみてください。

美ら島研究センター

<http://okichura.jp/ocrc/event/kousakushitu/>

熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

http://oki-park.jp/midori/pl_st/claft.html

海洋博公園

<http://oki-park.jp/index2.html>

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

季刊誌 南風 春号 vol.27
2013.4~6

編集・発行／



〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888 TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

一般財団法人 沖縄美ら島財団公式サイト《 <http://okichura.jp/> 》 国営沖縄記念公園公式サイト《 <http://oki-park.jp/> 》

2013年4月発行



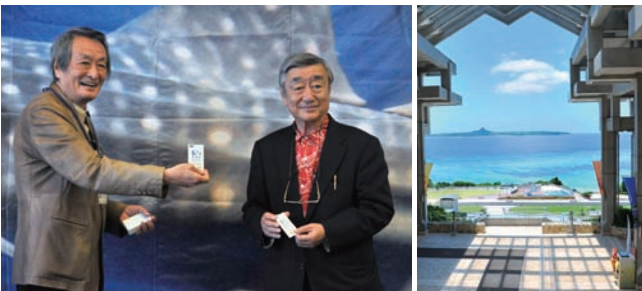
映画「ドルフィンブルー フジ、もういちど宙へ」(07年)

世界初の人工尾びれプロジェクトに賭けるイルカと人間たちの奮闘を描いた感動作。原因不明の病気で尾びれを失ってしまったバンドウイルカのフジ。再びフジを泳げるようにしてやりたいと、新米獣医がフジにゴム製の人工尾びれをつけることを思いつく。フジのために奔走する獣医を「神童」の松山ケンイチが好演。監督は「陽気なギャングが地球を回す」の前田哲。山崎さんは、この映画の中で水族館館長役を演じた。



—沖縄美ら海水族館の中で、特に
気に入りの場所がありますか？
お魚がいる水槽はもちろん好き
ですけど、ジンベエザメのモニユメ
ントのあるエントランスから、エスカ
レーターを下ったところにある館内
への入口。目の前が海で、ぱーっと開
けている、あの場所が好きなんです。

—山崎さんにもお気に入りの個体が
いらつしやるのでしょうか？
僕の場合は、最初はイルカのフジ
でしたね。水族館に行ったら必ずフ
ジのところへ行つて遊びます。それか
ら、昨年の夏に黒潮の海の大水槽の
ところで座っていたら、小さなエイの
子どもが僕の目の前をちよろちよろ
泳いで離れないんです。その子は
シッポがほとんどなくて、目立つん
ですよ。とても気に入って、先日も
訪ねた時に探してみたんですが、
見つからないんです。そうしたら、
一緒にいた獣医の植田ドクターが
「そりゃあ無理ですよ、魚は半年も
経てばすっかり大きくなりますか
らね」と言われました。これは失敗



写真右：大好きな沖縄美ら海水族館の中でも、特に気に入っている3階のめんそーれプラザ 写真左：沖縄美ら海水族館名誉館長に就任した山崎努さんと内田詮三前館長

—プライベートでも沖縄にいらして
いるとお聞きました。どこでどん
なふうに過ごされるのですか？
必ず行くのは沖縄美ら海水族館
と、水族館のある本部町周辺です。実
は、映画のロケの時に絵描きの友達が
できましてね。海が見える彼の家の庭
でくつろいだり、浜辺をぶらぶら散
歩したり、好きになった場所でのんび
り過ごしています。

—沖縄美ら海水族館で、おすすめの
楽しみ方があれば、教えてください。
いろいろな魚を見るのも楽しいで
すが、一匹だけ、自分の気に入った個
体をつくるのはいいですよ。なぜか気
になったとか、ふと仲良しになった個
体と、水族館を訪ねる度にずっと付
き合うというのは、楽しみ方のひとつ
だと思います。

—山崎さんにもお気に入りの個体が
いらつしやるのでしょうか？
僕の場合は、最初はイルカのフジ
でしたね。水族館に行ったら必ずフ
ジのところへ行つて遊びます。それか
ら、昨年の夏に黒潮の海の大水槽の
ところで座っていたら、小さなエイの
子どもが僕の目の前をちよろちよろ
泳いで離れないんです。その子は
シッポがほとんどなくて、目立つん
ですよ。とても気に入って、先日も
訪ねた時に探してみたんですが、
見つからないんです。そうしたら、
一緒にいた獣医の植田ドクターが
「そりゃあ無理ですよ、魚は半年も
経てばすっかり大きくなりますか
らね」と言われました。これは失敗

地域に密着した沖縄美ら海水族館の魅力。

—山崎さんにもお気に入りの個体が
いらつしやるのでしょうか？
僕の場合は、最初はイルカのフジ
でしたね。水族館に行ったら必ずフ
ジのところへ行つて遊びます。それか
ら、昨年の夏に黒潮の海の大水槽の
ところで座っていたら、小さなエイの
子どもが僕の目の前をちよろちよろ
泳いで離れないんです。その子は
シッポがほとんどなくて、目立つん
ですよ。とても気に入って、先日も
訪ねた時に探してみたんですが、
見つからないんです。そうしたら、
一緒にいた獣医の植田ドクターが
「そりゃあ無理ですよ、魚は半年も
経てばすっかり大きくなりますか
らね」と言われました。これは失敗



俳優 山崎 努

沖縄美ら海水族館 名誉館長

1936年千葉県松戸市生まれ。高校卒業後、俳優座養成所を経て、1959年に文学座に入団。1960年に三島由紀夫の戯曲「熱帯樹」で俳優デビュー。1963年に映画「天国と地獄」黒澤明監督で注目を集め、以降、映画、テレビドラマ、舞台と幅広く活躍。出演作多数、受賞歴多数。2012年1月、沖縄美ら海水族館の名誉館長に就任。

沖縄美ら海水族館が主たる
舞台となった映画、「ドルフィン
ブルー フジ、もういちど宙へ」
で、沖縄美ら海水族館の館長役
を演じた俳優の山崎努さん。そ
のご縁もあつて、2012年1
月、沖縄美ら海水族館の名誉館
長に就任されました。名誉館長
は、前館長の内田詮三氏に続く
二人目。以来、沖縄の観光振興
にも尽力されています。
映画のロケ以降、沖縄美ら海
水族館のある本部半島の美し
い自然に魅了され、プライベ
ートでも年に数回は沖縄に遊び
に行くという山崎さんに、沖縄
美ら海水族館の魅力について、
お話を伺いました。

contents

美ら島をつなぐ人	02	スポットライトの向こう側	12
沖縄のこころ	04	沖縄の大木	13
美ら島生き物日記	05	財団いんふお	14
調査研究	06	美ら島ワクワク工作室	裏表紙
沖縄の希少植物	07		
普及啓発	08		
管理運営	10		

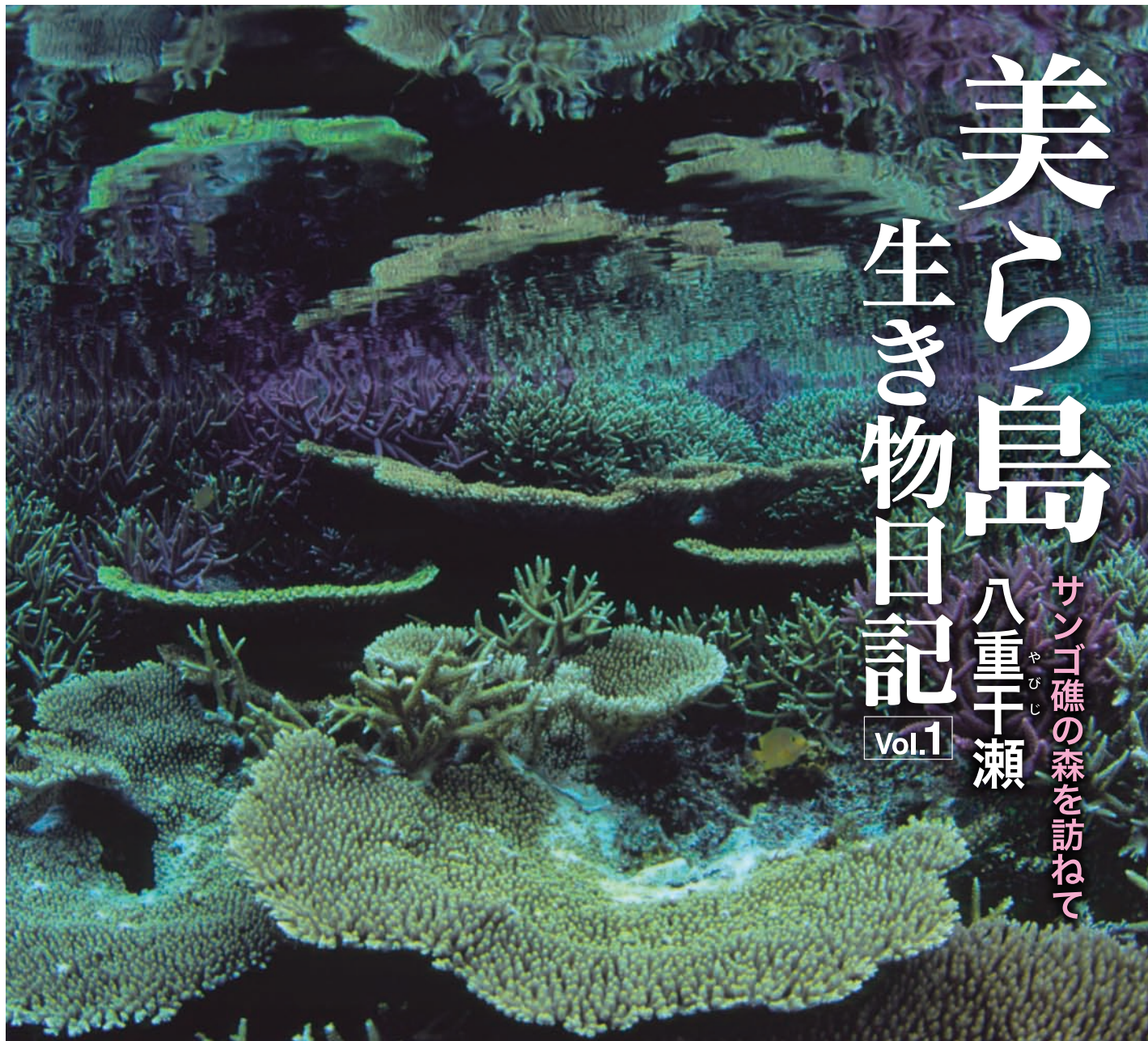
2012年10月1日、財団法人 海洋博覧会記念
公園管理財団は『一般財団法人 沖縄美ら島
財団』となりました。

作品タイトル「デイゴの花が咲く頃に」
花が満開のデイゴの木の上を、ジンベエザメなどの海の生き物
が春の空の上を駆ける。デイゴの花が、まるで珊瑚のよう。



表紙イラストについて
与 儀 勝 之 Masayuki Yogi
琉球イラストレーション作家 那覇市生まれ。

誌名「南ぬ風（ふえーぬかじ）」とは…
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思っています。



美ら島 生き物日記 Vol.1

サンゴ礁の森を訪ねて
やびじ

八重干瀬

八重干瀬のサンゴ群落。テーブル状や枝状などさまざまな形や色彩のものが見られるが、すべてミドリイン類に属するサンゴである。サンゴ礁域の浅瀬では最も普通に見られ、このように隣のサンゴとひしめき合っていることが多い。



写真・文
白鳥岳朋（しらとりたけとも）

水中&陸上 全天候型カメラマン。1986年、日本写真芸術専門学校卒業後、フリーランスのカメラマンとなる。1988年、スクーバダイビングを始め水中撮影を開始。以降、国内はもちろん世界の海でさまざまな写真を撮影。主な著書・写真集に『水中写真虎の巻』（マリネ企画）、『ハゼコレクション』『おさかな接近術』『ハゼガイドブック』（阪急コミュニケーションズ）、『水中を撮る！』（雷鳥社）など。現在、毎日新聞社のデジタル日刊紙『TAP』（タップ・アイ）にて「海に生きる」を連載中（毎週土曜日更新）。東京生まれ、沖縄在住。

「ウツグス（奥の奥。ウツ＝奥、ダス＝超える）」「ヒゲマラ（男女の交わり）」「イラウツビジ（ブダイが沢山いる場所。イラウツ＝ブダイ、ビジ＝干瀬）などなど、その特徴をうまくとらえた地名が海の中につけられている、美しい場所がある。宮古列島の「ヤビジ（八重干瀬）」、南北に約17^キ、東西に約6.5^キにわたる広大なサンゴ礁群だ。

100以上のサンゴ礁から形成され、そこには約170種のサンゴが生息しているとされる。昨今、世界的に死滅が進んでいるのではないかと問題視されているサンゴ。海水温の上昇やオニヒトデの異常繁殖が原因と考えられている。しかしヤビジは人間の生活の影響を受けにくい距離が保たれているためだろうか、青、青緑、緑、紫、そして黄色といった鮮やかなサンゴが今も多く残っている。

また、ヤビジには、「幻の大陸」と称される現象がある。それは春から夏にかけての大潮の低潮時には、あたかも島がそこにあるかのように、広い礁が海面から姿を現すのだ。

その時は、印象派の絵のような色彩と模様が、まばゆいばかりに水面を染めることとなる。

沖縄の こころ

地域の伝統・文化を支える人たち



ちょんだらー

宜野座の京太郎

Vol.1

宜野座村字宜野座では、2年に一度、旧暦の8月に「八月あしび」が開催される。野呂殿内での奉納御願から始まり、道ジュネー、棒術の奉納、そして特設舞台での舞踊、組踊や芝居の上演と続く。もともとこの地域に伝わっていた神あしびに、廃藩士族が加わり、1896（明治29）年に二才団が平松毛で芸能を上演したのが現在のスタイルの始まりだ。二才団は八月あしびのために結成される地域住民の団体で、20代から50代が主力。上の世代が師匠役となり、若い世代が芸能を受け継いでいる。

「宜野座の京太郎」は1985（昭和60）年、県の無形民俗文化財に指定。宜野座で初めて上演されたのは1900（明治33）年のこと。太鼓打ち、馬舞者、踊り手が登場し、扇子の舞、御知行、鳥刺し舞、馬舞を演じる。物悲しいメロディや歌詞、独特の振り付けに、日本各地に伝わる民話「絵姿女房」をベースにした人形歌劇や狂言の影響が見られる。八月あしびのほか、国立劇場おきなわなどでも上演される。

「京太郎になれる人数は限られている。これを踊れるのは誇りです」と語るの

「当たり前にあつたものだから、面倒くさいとは思いません。小さい頃から見てきた舞台に、いつの間にか自分が立っている」と下里哲志さんという。

馬舞者歴10年目の幸喜大輝さんはこう話す。

「伝統を受け継ぐには、師匠にちゃんと教えてもらわないと、僕から次に教えられないですよ」

世代間の交流が二才団の良さとと語るのは仲村優一郎さんだ。

「先輩たちのアツい話が聞けるんですよ。先輩たちの言葉で、僕らのところが変わることもある」

異なる世代の人々がひとつのことを共に成し遂げることで、地域の伝統が受け継がれている。



サンゴ礁生物多様性調査（海藻類）

ワカメやコンブなど、日本食に欠かせない食材として身近な海藻ですが、身の回りで見られる草や木などの種子植物と違って根、茎、葉の区別はありません。藻類とは、種子植物やシダやコケ以外の、光合成を行う生物グループの総称です。その中でも海に生育していて、目に見える大きさのものを一般的に「海藻」と呼んでいます。さらに、光合成に使われる色素の違いによって、海藻は褐藻・紅藻・緑藻という3つのグループに分けられます。モズクやワカメ、コンブは褐藻、アサケサノリや寒天の原料になるテングサの仲間、紅藻、沖縄で食用にするアサケやウミブドウは緑藻に分類されます。暖かな沖縄の海には、緑藻が多く生育するという特徴があります。

サンゴ礁の中にはさまざまな海藻が生育し、生物を支える基礎生産者としてサンゴと同じくらい重要な役割を担っており、貴重な海藻類が報告されているにもかかわらず、継続的な海藻の調査はほとんど行われていません。では、沖縄の海にどれくらい海藻が

生育しているのでしょうか？

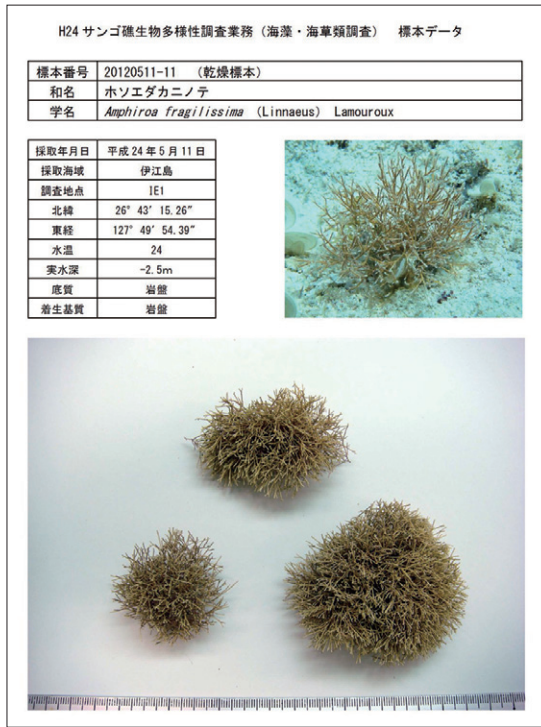
沖縄美ら島財団では、海洋博公園沿岸を含む沖縄島北部のサンゴ礁に豊富に生育する海藻類の標本目録調査を2006年から行っています。この調査では、海藻類がもつとも繁茂する春期、海中に潜って生育状況を確認し、海藻目録の作成を継続して行っています。海洋博公園前の海域からは113種、備瀬の礁池からは59種、本部半島の北部沿岸（本部町新里、今帰仁村古宇利、羽地内海、名護市稲嶺）からは130種、本部半島西部沿岸（伊江村伊江島、本部町水納島、瀬底島、崎本部）から119種の海藻類が確認されました。

その中には絶滅危惧種のエツキアヤニシキや、カサノリ、ツクシホウズキ、スズカケモなども見られ、それぞれの海藻の分布は、サンゴ礁の中の地形や水深とかわかりがあることが明らかになりました。

また、沖縄島の本部半島は、天然記念物である塩川にシオカワモツカ（準絶滅危惧：沖縄県・環境省）の生育がみられることをはじめ、

め、屋我地島の干潟にはかつてクレミドロ（絶滅危惧Ⅰ類：沖縄県・環境省）の分布が報告されていました。さらに、身近にある海域に貴重な自然環境が残されていることの大切さや面白さを子どもたちに伝えるため、海藻のことをわかりやすく紹介したリーフレットも作成しました。今後も沖縄の海洋生物の調査を行い、得られた情報を幅広く発信していきます。

（山本広美）



海藻の標本データ



海藻リーフレット

沖縄の希少植物 Vol.19

和名：ジョウロウラン／上臈蘭

科名：ラン科

学名：*Disperis siamensis*

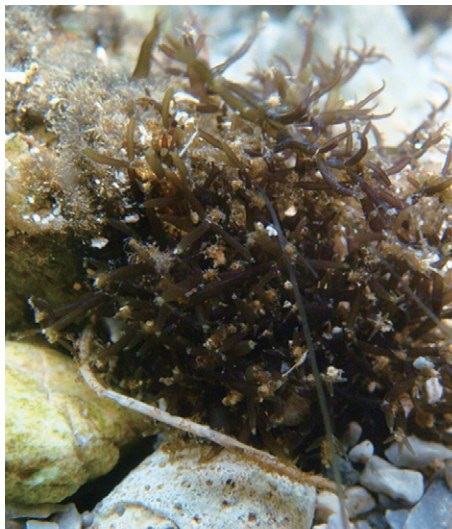
レッドデータカテゴリー：

絶滅危惧ⅠA類（沖縄県）、絶滅危惧ⅠA類（環境省）

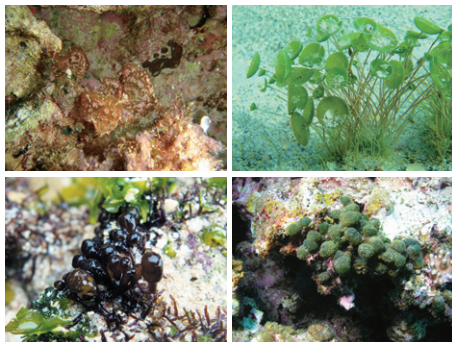
山地の自然林内の薄暗い林床に生育し、夏緑性（冬は枯れる）の小形の多年草です。花には、虫を誘うためなのか、黄色の偽花粉（ぎかふん）と呼ばれる本来の花粉機能を果たさないものを弓なり状につけます。

本種が属するジョウロウラン属は、多くがアフリカに分布します。自生地の石垣島と西表島は、この属の分布域の北限で学術的にも貴重です。また、自生地と個体数が少ない上、自然林の伐採で絶滅の危機に瀕しています。

和名の「じょうろう（上臈）」は、花の形が、きらびやかなかんざしと豪華な着物をつけている幕府や大名に仕える女官の姿に見えることに由来するとされています。（阿部篤志）



シオカワモツカ



潜水調査の様子



① エツキアヤニシキ
② カサノリ
③ ツクシホウズキ
④ スズカケモ

第11回アジア太平洋蘭会議・蘭展 — 沖縄大会 — 第27回沖縄国際洋蘭博覧会の開催報告



写真①



写真③



写真④



写真②



写真⑤



写真⑥

第11回アジア太平洋蘭会議・蘭展 — 沖縄大会 — (以下 APOC11) と第27回沖縄国際洋蘭博覧会(以下洋蘭博覧会)は、平成25年2月2日(土)〜2月11日(月)にかけて海洋博公園を会場に同時開催されました。

会場は、初日から多くの方にご来場していただき、「数年ぶりにきたけど、すごい迫力」、「こんなに花に囲まれて幸せ」など会場内でたくさんのお客様から多くの感嘆の声が聞かれました。

主催者展示としては、身近な生活空間へランを取り込み新たなラン産業を提案する「Living with Orchids」(写真①)、「世界初公開となる「青いコチョウラン」の展示等を行いました(写真②)」。特に「青いコチョウラン」は、その神秘的な色を見ようと連日行列ができる盛況ぶりでした。また、様々な園内装飾(写真③)や普及啓発イベント「君もラン愛好家／子供達が咲かせたランの展示会」(写真④)なども行いました。

夕陽の広場では、特設会場を設置し、国内外からの出展者によるディスプレイ展示を行いました。通常の洋蘭博覧会より大きな6m×4.5mスケールのディスプレイは大迫力で、多くのお客様から好評を得ました。熱帯ドリームセンターの回廊中庭で行われたステージイベントでは、タイ、インドネシア、台湾から民族芸能団

を招聘し、伝統芸能等を紹介し国際的な文化交流をはかりました(写真⑤)。

インド、ネパールなど9カ国が初参加となり、大会への参加国・地域は、25カ国・地域と通常の約2倍の参加となりました。APOC11のもう一つの核となる蘭会議では、基調講演4題、研究発表48題、ポスター発表22題を実施しました(写真⑥)。連日会場では、発表者同士や参加者とのあいだで多くの情報交換がおこなわれました。審査では、一般公募によるランの審査を行ない最優秀賞に沖縄国際洋蘭博覧会大賞(内閣総理大臣賞)(Vanda, Lamellata, Long Well, 永井清:写真⑦)の審査部門に大臣賞他各賞が授与されました。また、APOC11からも最優秀賞へ、APOC11グランプリが授与され、ディスプレイ部門の最優秀作品へは、

APOC11ディスプレイグランプリ(「生命の歓喜」悠久の時を超えて〜沖縄県立北部農林高等学校園芸工学科:写真⑧)が授与がされました。

今回の大会では、出展作品の審査会や表彰式・懇親会、交流会等を通して、国際的な交流の輪がさらに広がりを果たしたように思います。今回の国際的な会議・展示会の運営経験を活かし、今後の沖縄国際洋蘭博覧会のさらなる内容の充実、国際交流の推進を図っていききたいと思っています。また、国際交流を推進するために、情報発信を継続して国内外で行い、沖縄の歴史や伝統文化、豊かな自然等の魅力を紹介し、沖縄の知名度向上と誘客促進につなげていきたいと考えています。(峯本幸哉)



写真⑦



写真⑧

懐かさん中城御殿 〜森政三コレクション 中城御殿古写真展〜

2012年3月14日から7月3日まで、首里城公園南殿一階企画展示室において「懐かさん中城御殿〜森政三コレクション中城御殿古写真展〜」を開催しました。

故森政三氏は文部省の技官で、戦前、国宝であった守礼門の修理や、戦後は園比屋武御嶽石門の復元に携わりました。「森政三コレクション」は、森氏が所蔵していた首里城や沖縄の文化財、県外の文化財建造物に関連する図面、写真、拓本や修理資料等、約300点の資料群のことで、2001年に当財団が収集したものです。

その中から、中城御殿に関するまとまった古写真や建設当時の中城御殿の見取り図が描かれた板図が2010年に発見されました。この板図にあるのは、琉球王国末期に建設された旧沖縄県立博物館の敷地にあった中城御殿です。中城御殿は琉球王国の王子の邸宅でしたが、1945年の沖縄戦で破壊されるまで王家の人々が生活していました。



古写真や翻刻した板図の解説パネルをとおして、屋敷の間取りや調度品、庭園の様子等、王家の人々の暮らしを窺い知ることができ、22枚の古写真を展示し、中城御殿について普及啓発することができました。(久場まゆみ)





沖縄美ら海水族館10周年記念ボトル「黒潮のしずく」43度、3年古酒。1000本限定、10,500円(税込み)にて、ショップブルーマント、やんばるの杜で発売中

どは、現場や役員の意見を反映させて決定した。10周年記念ボトルは吹きガラスがオシャレな印象だ。「オシャレですが、一本いっぽん微妙に違うのでボトルを洗うにも詰めるにも手がかかるんですよ」と山川さんは笑う。

「10周年記念ボトルは1000本限定での販売ですが、おかげさまで大好評。泡盛愛好家の方は何本もまとめ買いされるんですよ。これからの泡盛に限らず、地域振興という財団の目的に沿った形で、レストランでやんばるの食材を出したり、やんば

北部の酒を、愛好家はもちろん一般の方に広く知っていただけたら

るのお菓子を売ったりしていきたいですね」とは仲間。

山川さんは、こんな話をしてくれた。「僕ら地元の酒造所から見ても、海洋博公園、沖縄美ら海水族館はお客様がいつばい来る、魅力のある市場。『やんばるの杜』には北部11酒造所の酒も置いてもらっています。泡盛愛好家はもちろん、一般の方々や観光客の皆さんにも、北部の酒を知っていただけたらありがたいですね」



左:モロミを攪拌している様子
下:手前は昔ながらの甕での貯蔵、奥はステンレスの仕込タンク



地域とのコラボ商品を水族館が発信

写真左:有限会社山川酒造 代表取締役 山川宗克さん
写真右:沖縄美ら島財団水族館事業部営業課 課長補佐 仲間敏剛

地域社会への貢献は、沖縄美ら島財団の大切な役割の一つ。その一環として、海洋博公園開園30周年を記念して初代「黒潮のしずく」が商品化された。

「30周年の2006年当時、北部酒造組合(現在の北部酒造協議会)にお話をいただいたんですよ。30周年に向けて、11酒造所すべての30度の新酒をブレンドしたのが、初代の『黒潮のしずく』です」と話すのは、有限会社山川酒造の山川宗克社長。通常、異なる酒造所の泡盛がブレンドされることはほとんどないため、これは画期的なチャレンジだったと振り返る。

「11酒造所の酒はそれぞれ、香りの個性も違いますし、寝かせているうちに味のバランスも変わってきます。泡盛にはB-フェニチルアルコールやフェルラ酸などの微量成分が入っていて、これが酸化還元をしながら変化をしていくんです。年月が経って香りが変化していくのは、この酸化還元のためなんです。ビンの中でも熟成はします。が少し遅いので、酒造所ではタンクに貯蔵して手を入れながら早く

地域との連携から生まれた
まろやかな風味が魅力

熟成させるんです。熟成したときにどう変化するか、読めない部分もありました」

この『黒潮のしずく』は、水族館1階の「ショップブルーマント」、総合案内所ハイサイプラザ内の「やんばるの杜」で販売した。

「北部地域全蔵元のお酒が入っているものを、地元で出したいという企画でした。いざ売り出してみると大好評。予測を上回る売れ行きだったと当時の担当者からは聞いています」というのは、財団職員の仲間敏剛。以後は参加可能な6社の泡盛をブレンドして販売していた。

再び11蔵元ブレンドボトルが登場したのは、沖縄美ら海水族館開館10周年の2012年だ。山川社長は語る。

「43度の一般酒をブレンドして3年寝かせて古酒にしました。古酒らしい香りや甘みもあって、力強い味になっています。古酒としては発展途上なので、8年、10年と時間が経つとさらにまろやかに

なっていくと思いますよ」

ボトルやラベル、箱のデザインな

2012年に開館10周年を迎えた沖縄美ら海水族館。海人ゲートから目の前に広がる海へと向かう感覚は何度体験しても飽きないサブライズであり、入口から黒潮の海大水槽へと向かう動線には、この先に大水槽があるとうわかっていてもワクワクするような高揚感がある。このサブライズや高揚感を演出しているのは、水族館の建物そのものだ。その設計について、実施設計を担当した株式会社国建の国場幸房名誉会長、福田俊次常務、安谷健設計部長に話を聞いた。



株式会社国建
名誉会長 国場 幸房 こくば ゆきひろ

いのは、水処理の施設。水族館には生き物のいのちを預かる責任があります。その心臓部はケチれないけど、他を工面しながら難しい課題を何とかクリアしました」

国場「水族館側も飼育からの視点で要望がある。設計側との調整を重ねました。例えばトップライトから自然光を入れることも、水槽に藻がついて大変だと反対された。でも沖縄の海を見せるというコンセプトなら、やはり自然光であるべきです。僕は『人工照明の演出は東京でやってくれ』と言いました。これを、どこかで見たことのあるものにしてはいけない」

福田「おかげで調整役の僕は白髪が増えましたよ(笑)」

国場「ジンベエザメが立つて餌を食べるのを見られる水槽となると深さは10メートル。全長の3倍以上の遊泳距離が必要だから奥行きは27メー

トル。7500トンという水の水压に耐えられる水槽が必要でした。水槽に補柱をつけるのは簡単だけど、大スクリーンに仕切りが入るのは面白くない。一枚のスクリーン状で、しかも透明度があつて水中が屈折して見えないことが条件です」

福田「見せ場はここですから、アクリルガラス全体の予算の中でやりくりしましたよ。補柱のない一枚ガラスという考え方は水族館建築の常識外だったかもしれませんが、まず技術的に可能か確認するところから始めました」

国場「メーカーの日浦さんは、厚さを60センチにしたら技術的に可能ということでした。それが結果的に世界一になって、当時ギネスブックにも載った」

―ほかに設計で苦労した点は？

国場「あの建物は大きな石灰岩の上に建っていて、その下は泥状なんです。泥の下に何十メートルもの杭を打つのは避けなかった。計算してみると、取りのぞいた岩山の重さより建物全体の重さのほうが軽いので、そのまま建物を岩の上に建てました」

福田「工事が始まったら現場のモチベーションも大切です。職人さんた

―設計にあたって考えたことは？

国場「地元の財産を作らせてもらったのは、ありがたいことです。税金を使う以上、国民の建物を造るという気持ちで、世界一のことを設計しようと考えました。そこで実施設計の段階で、入口のパーゴラ(海人ゲート部分)を設けることと、大水槽の柱のない大きなアクリルパネルの変更を

提案しました。当時の所長にとっても勇気のある決断だったと思いますよ」

―水族館の設計は初めてでさそうですね。他の建物との違いは？

国場「こどもの目は正直です。水族館オープンの日には水槽の前でこどもたちが歓声をあげているのを聞いて、この設計は成功したと思いました」

福田「全体予算の中で建物より大き

ちにも全体像を共有してもらおうと見やすい場所に図を置いたり、『世界一の水族館をつくろう』と標語を掲示しました」

国場「大水槽に水を入れる前に、職人さんたちの家族も呼んで、見学会をしました。僕もたくさん記念写真を撮ったなあ(笑)」

安谷「水を入れた時もすごかったですね。滝のような音で、一度水を入れ

たら、二度とその水が抜かれることはありません。水族館に携わっていた全員が、感無量の日でした」

―オープン後の10年でうれしかったことは？

安谷「ビジネス誌の水族館ランキングで1位になったこと。一般の人に評価されて、今も客足が落ちていないのもうれしいですね」

左から福田俊次常務取締役、国場名誉会長、安谷健建築設計部長。手前にあるのがアクリルガラスのサンプル。他の水族館と比較検討し、黒潮の海大水槽のプランが決まった。



―ここ最近では、年間約270万人が入館しています。2008年は、上野動物園を抜いて、310万人を記録したんですよ。

福田「一つの施設が人の流れを変えることにはびっくりしました。今では北部観光の拠点ですよ。これからはMOEや結婚式など、活用の幅が広がるとうれしいですね」



＜和名＞
リュウキュウコクタン
＜科名＞
カキノキ科
(学名:Diospyros egbert-walkeri)
Vol.19

リュウキュウコクタンはカキノキ科の常緑高木で、奄美以南、沖縄、台湾、中国南部、インド、マレーシア、ミクロネシア等に分布しています。

成木の中心部の材は黒色で堅く、三味線の棹や床柱に利用されています。別名のクロキやクルチはこの材色に由来します。沖縄県内では庭木や街路樹によく利用されていてなじみの深い樹木です。

沖縄県名護市屋部の久護家は、沖縄県の有形文化財に指定されていますが、その前庭のリュウキュウコクタンは、おきなわふるさとの名木(沖縄県緑化推進委員会)として推定樹齢80年、樹高10メートルと記録されています。周囲をフクギで囲まれた庭の中でもひととき存在感があり、赤瓦の屋根を越える姿は見応えがあつて訪れる人を惹き付けていました。

まっすぐ伸びた幹から四方に幾つもの枝を出していますが、南側上部の枝葉には隙間も見られました。家主に聞くと最近では台風時の風害や、枝枯れも有ることから専門家による確認と、薬剤散布等の対処もしてもらい、大事に見守っているとのことでした。

野生のリュウキュウコクタンの大木は、材の利用等によりその姿を確認する事は難しくなっています。庭木として民家の庭先でよく目にする樹木ですが、幾多の風雨を凌ぎ大木に育ったリュウキュウコクタンは次の世代にも引き継ぎたいものです。(山里將樹)

